

平成28年度 国立感染症研究所研究開発課題評価報告書

1. 研究課題評価の対象

研究課題評価は、当研究所において特別な予算措置がなされた研究課題を対象に、「国立感染症研究所所内研究開発評価マニュアル」に基づき、研究事業費における2課題にかかる中間評価、及び同2課題にかかる事前評価を実施した。

中間・事前評価の評定事項は、①当該研究の必要性、②当該研究の効率性、③当該研究の有効性であり、具体的な評価に際しては、①当該研究のミッションの意義、②目標の実現性あるいは達成度、③成果への評価（学術的、社会的、国際的貢献の観点から）、④今後の継続の必要性、⑤行政的観点からの重要性、緊急性について重点的に評価することとした。

2. 評価の方法

評価は、研究所所長から委嘱された11名の委員（資料）で構成される国立感染症研究所研究評価委員会（以下「委員会」という。）において、次により実施した。

- (1) 研究課題等評価資料について、各委員に対して事前に配付（第1回配付：平成29年1月13日、第2回配付：平成29年2月8日）した。
- (2) 委員会は、平成29年2月15日（水）、東京都新宿区の研究所戸山庁舎において開催した。
- (3) 委員会における評価の具体的な進め方は、研究所からの説明を受け、その説明に対して各委員との質疑応答を行うとともに、総体的に委員のみによる討議を行った。
- (4) 委員会における評価のとりまとめは、各委員が研究課題評価票に評価結果を記載し、後日、当該評価票を元に報告書としてまとめ、評価委員長から研究所所長に対し報告書を提出した。

3. 研究課題評価の結果

委員会は、上記1及び2を踏まえ、各々の研究課題にかかる評価を実施し、5段階による評価基準（①4.6～5.0＝特に優れている、②4.0～4.5＝優れている、③3.5～3.9＝良好、④2.5～3.4＝やや劣っている、⑤2.4以下＝劣っている）に基づき、総合評点を付した。

(1) 中間評価（研究事業費）

ア. 特殊・不明感染症発生緊急対応に関する研究事業

[特記事項]

重要なテーマを扱っている。ジカウイルス感染症など新興感染症のリスクアセスメント、輸入デング熱の渡航者リスク評価、在外医務官からの情報収集等を実施してきており、着実に成果を上げてきている。研究成果がGHSI対応、国内対応に結び付いていることは評価される。一方、グローバル感染症のサーベイランスに必要な研究、学術的な貢献についても具体的な成果を出してほしい。

[総合評点] 4. 3

イ. ロタウイルスワクチン検定及び品質管理に関する基礎研究事業

[特記事項]

ロタウイルスワクチン検定の効率化のために必要な研究が行われており、実用的な研究といえる。ワクチンはすでに承認されており、効率的な検定を進めるために検定方法の改善を図る等の成果を得た。ワクチン副反応でのディープシークエンス法の導入は独創的であり評価されるが、今後技術的な検討をしっかりと検討を進めてほしい。

[総合評点] 4. 1

(2) 事前評価（研究事業費）

ア. 薬剤耐性菌感染症制御研究事業

[特記事項]

薬剤耐性菌（AMR）対策は極めて重要な課題であり本研究の意義は大きい。特に、東南アジア諸国における耐性菌の発生を低減するための対策は我が国のAMR対策にとっても必要不可欠であり、日本の支援が重要となる。研究を進めるにあたり、ビッグデータのノイズに十分留意しながら慎重に進めて欲しい。実施する意義が高い研究であり、アクションプランの実行に資する研究成果が期待される。

[総合評点] 4. 5

イ. 国際的脅威となるジカウイルス感染症、SFTS等の節足動物感染症対策及び不明感染症例の病理検査の確立に係る事業

[特記事項]

今後の感染症対策という観点から本研究は重要である。ジカウイルス感染症、SFTS等のリアルタイムな把握や検査法の確立、原因不明感染症の病理学的検査法を確立等いくつかの異なるテーマを含んでいることから、研究参加者が十分連携を取って本事業を進めてほしい。実施に当たっては、地方衛生研究所との連携も重要視して進める必要がある。継続的な研究が必要となる研究テーマである。

[総合評点] 4. 4

以 上

平成29年4月28日

国立感染症研究所長 殿

国立感染症研究所研究評価委員会

委員長 岩 本 愛 吉

国立感染症研究所研究評価委員会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 職 名
青 山 温 子	名古屋大学大学院医学系研究科・教授
<委員長> 岩 本 愛 吉	国立研究開発法人日本医療研究開発機構科学技術顧問
遠 藤 弘 良	聖路加国際大学臨床疫学センター教授／公衆衛生大学院設置準備室長
賀 来 満 夫	東北大学大学院医学系研究科・教授
鎌 田 光 明	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局長
神 谷 茂	杏林大学医学部感染症学・教授
櫻 井 信 豪	独立行政法人医薬品医療機器総合機構・品質管理部長
調 恒 明	山口県環境保健センター所長
畠 山 昌 則	東京大学大学院医学系研究科医学部微生物学・教授
平 山 謙 二	長崎大学熱帯医学研究所・教授
柳 雄 介	九州大学大学院医学研究院ウイルス学・教授

※五十音順、敬称略。所属等は、平成 29 年 2 月 15 日現在。